

令和七年度『第七十九回 卒業証書授与式』式辞

式辞

春の日差しにあたたかさを感じる今日の良き日に、晴れの『卒業証書授与式』を迎えられた第七十九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、ご参列のご家族の皆さまにおかれましては、卒業証書を受け取るお子さまの立派に成長された姿を見られ、さぞ嬉しく思われていることと存じます。十五年間の子どもたちへの精一杯の愛情が、ここに身を結び、義務教育を修了されたこと、心よりお祝い申し上げます。

また、卒業生のお祝いに早朝よりご臨席を賜りましたご来賓の皆様方には、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

さて、私が卒業生の皆さんと過ごした時間は、たった一年間でありましたが、私にとっては感動と驚きに満ちた一年でありました。中でも、体育大会での『ダンスパフォーマンス』は、完成までには、様々な苦労があったようですが、「これぞ、みんなの力で・みんなのアイディアで・みんなの優しさで作り上げた」と実感できる本当に素晴らしい取組でありました。

進路に向けての面接練習で、「中学校生活での一番の思い出は何でしたか？」と質問すると多くの人が「体育大会のダンスパフォーマンスです！」と答えていました。自主的な取組であったからこそ感じられた達成感や充実感であったのではないのでしょうか。あれだけの集団をまとめるには、困難も多くあったと思いますが、最後まで本当によく頑張ってくれました。卒業生の皆さんが最上級生として下級生に優しく接し、見本を示してくれたことが強く印象に残る取組でありました。

皆さんが中学校生活を送ったこの世代は、ICT や AI が急速に進化し、『正解』がすぐに検索できる時代です。しかし、皆さんのダンスの取組は、「どうしたらうまくいくのか？」と検索しても答えの出てこないものでした。そこにあったのは、失敗し、悩み、仲間と話し合いながら創り上げた皆さんだけの『正解』であったように思います。その経験こそが、これからの社会で何よりも力になると感じています。これから先、AI はますます賢くなります。でも、AI は皆さんの代わりに悩んだり、誰かを思いやったりはできません。人と協力し、心を動かし、新しい価値を生み出す力は、人にしかできないものです。これからの生活の中で、上手くいかない時は、「あの時の体育大会、何とかよかったよな～」と思い出してください。自分を信じ、仲間を信じ、時には立ち止まりながらも、前へ進んでほしいと願っています。

七十九期生の卒業文集には、修学旅行や体育大会・文化発表会などの行事への思いや、部活動への思いが多く書かれていました。修学旅行の夜のレクリエーションでは、全員でスカートを履いてヘビーローテーションを踊ったことなど、「人生で一番笑ったんじゃないかと思うほど笑った！」と楽しかった思いが書かれおり、思わずホームページで当時の写真を見直して笑ってしまいました。本当に楽しい夜のレクリエーションでありました。部活動では、顧問の先生の厳しさの中にも優しさを感じながら、仲間と支えあってきたことから引退の日に大号泣したことなどもありました。

家族へは、「ここまで育ててくれてありがとう。いつも反抗してばかりでたくさんケンカもしたけど家族のおかげで楽しい中学校三年間になりました。」という感謝の言葉も記されていました。また、式典の最後に歌う『卒業生の歌』の歌詞にあるような自分自身を支えてくれた友への感謝の気持ちを表したものも多く、「今、振り返ると何気なく過ごしてきた一日一日が、かけがえのない時間だった」と感じている人も多くいたようです。卒業後の進路先においても、お互いを理解し、支えあえる友と出会えることを心より願っています。

二日前の三月十一日は、十五年前に二万二千人を超える犠牲者が出た『東日本大震災』が発生した日です。卒業生の中には、今日が“お誕生日”という人もいたので、皆さんの多くが0歳か、もしくは、もうすぐ産まれるという年に、日本中が自然災害の脅威に震えた大地震が発生しました。地震大国の日本では、近い将来、高い確率で『南海トラフ巨大地震』が発生すると言われていています。『防災・減災』のことを学ぶ中で、皆さんのような若い力が、今生活をしている地域社会にとって必要な人材であることは、『阪神淡路大震災』や『東日本大震災』、そして皆さんもよく知っている『能登半島地震』の教訓からも分かっていることです。自然災害のみならず自分自身のいのちを守ることに、家族・友だち・地域の方々と助け合って、お互いのいのちを守っていくことが、地域社会で生きていくうえで最も大切であることは間違いありません。

また、皆さんは、今まで中学校という小さな社会の中で生活をしてきましたが、義務教育を終えれば、一般社会の一員として生きていくことになります。その社会の中で、とても気の合う仲間と出会い、とても大好きな人ができ、何事も張り合うライバルがあらわれることと思います。その一方で、まったく馬の合わない、考え方の違う、自分にとって苦手な人との出会いも当然あります。中学校のような小さな社会の中でもそうであったように、人には人それぞれの考え方や思いがあることを理解しておく必要があります。それが違いを認め合うということだろうと考えます。卒業生の皆さんが『文化発表会』で発表した劇『個性の花よ、咲きほこれ！』が、まさしくそのことを表現してくれた取組であり、「～個性を力に 感動を共に～」のテーマに沿った素晴らしい発表でありました。

現在、世界では、それぞれの考え方や思いの違いから戦争や紛争が起こっている国や地域があります。昭和中学校の校訓にある『調和』には、「自ら相手を受け入れる」という意味があります。お互いの考えや思いの違いを認め合いながら、それぞれの人の持つ良さや能力が十分に発揮できる社会を皆さんは今後めざして生きてほしいと願っています。

結びに、今日の良き日を迎えるまで、様々な心配をかけながらも、立派に育ててくれた家族の方々への感謝の気持ちを忘れず、また、たくさんの笑顔や思い出をくれた友だちや母校に思いを馳せながら、四月から始まる新しい未来に向かって歩んでくれることを昭和中学校教職員一同、心より願っています。「第七十九期生の皆さん、卒業おめでとう！」

令和八年三月十三日

大阪市立昭和中学校長 山咲進一